

# 島根県の観光—神社仏閣を中心として—

2 回生 郷原 すず

## 1. はじめに

島根県は、「ご縁の国しまね」というキャッチコピーで観光の PR をしてきた。ご縁をもとめて全国から参拝客が集まる出雲大社には、2019 年では、年間約 634 万人もの観光客が訪れた。現在は、「ご縁も、美肌も、しまねから」にキャッチコピーを変更している。島根県は POLA の美肌県グランプリで何度も第一位を獲得している。また、玉造温泉は美人の湯として有名で、その泉質は化粧水にも匹敵するものだと言われている。島根県は今までのご縁に加えて、玉造温泉を中心に、美肌の要素も取り入れた PR も進め始めているのである。では、実際に島根県の観光は、どのようになっているのか。本稿では、神社仏閣を中心として、島根県の観光の特徴やその実態について考察する。

## 2. 島根県の観光の特徴

島根県の観光の特徴を捉えるため、まず、島根県の観光客数の推移を見る。図 1 は、島根県の近年の観光入込客延べ数の推移を示したものである。図 1 より、近年の島根県の観光客数について、2004 年から 2012 年までは大きな変化がなかったが、2012 年から 2013 年の間に急激に増加し、2013 年がピークとなっていたことがわかる。その後の 2014 年には、観光入込客延べ数は急激に減少し、2015 年から 2018 年も緩やかに減少する傾向が見られた。しかし、2018 年から 2019 年の間には、観光入込客延べ数が急激に増加したことがわかる。そして、2013 年より前と、2013 年より後の観光入込客延べ数を比べると、2013 年より後の観光入込客延べ数が、平均的に増加していることがわかる。図 2 は、島根県の宿泊者延べ数の推移を示したものである。観光入込客数が約 2,500 万人から 4,000 万人の規模で変化しているのに対して宿泊者数は約 250 万人から 400 万人の程度の規模で変化しているが、図 1 とほぼ同じような推移の傾向が見られる。これらの推移の原因について考察していく。2004 年から 2012 年までは全体を通して大きな変化はないが、2006 年から 2008 年にかけてやや増加の傾向が見られ、2009 年には観光客が減少している。この間には、2007 年の石見銀山世界遺産登録を中心とした観光客の増加と落ち着きがあったと考えられる。2013 年には出雲大社の本殿の平成の大遷宮が行われており、2013 年が島根県の近年の観光客数の推移においてピークとなった原因になっていると考えられる。出雲大社の平成の大遷宮が終わり、2014 年には観光客が急激に減ったが、その後、観光客数が急激に減少していくことがなく、以前よりも観光客が多い状態を保つことが出来たのは、出雲大社の平成の大遷宮による注目の高まり、観光客の増加によって、島根県といえば出雲大社というイメージの定着に加え、高速道路の整備や、フジドリームエアラインズによって出雲と仙台、静岡、名古屋、神戸を結ぶ便の運行が開始され、交通の整備が進んだことが考えられる。また、2018 年に島根県

西部地震や西日本豪雨といった災害が発生し、2019年にはそのような災害が減少したため、2019年に急激に観光客が増加したことは、2018年の反動によるものと考えられる。

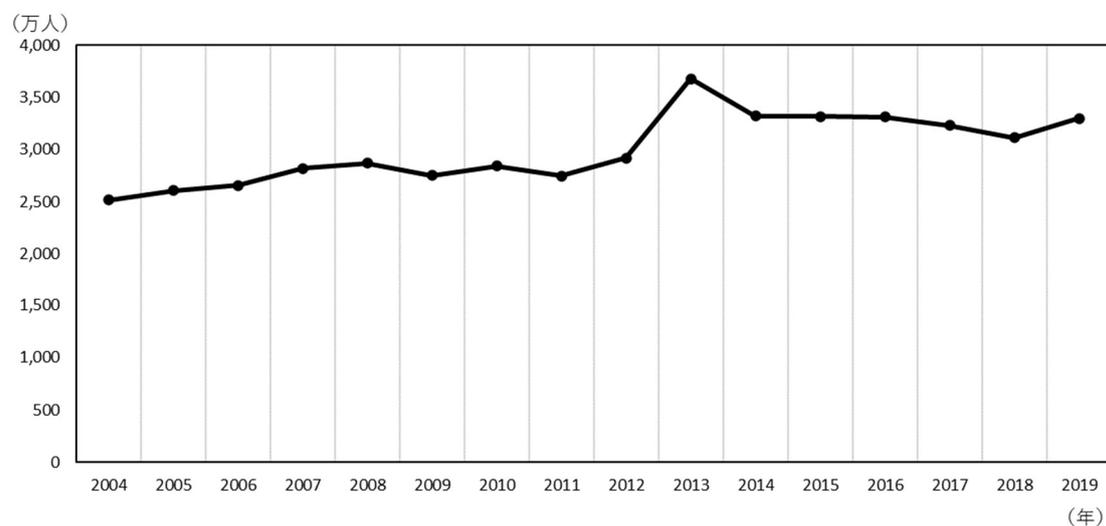


図1 島根県の観光入込客延べ数の推移  
(観光動態調査より作成)

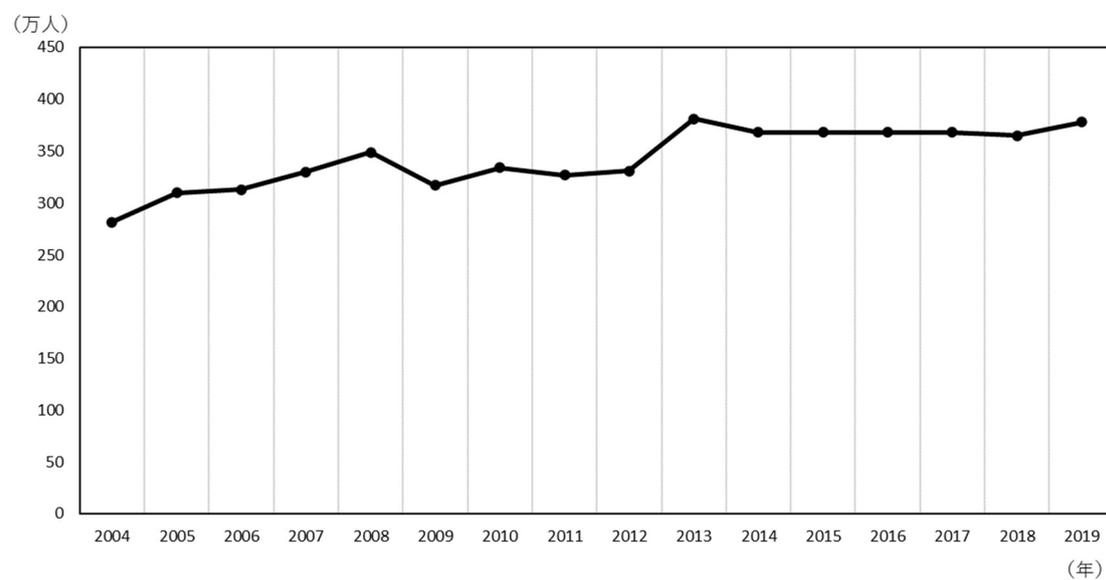


図2 島根県の宿泊者延べ数の推移  
(観光動態調査より作成)

次に、島根県の観光客が、島根県内のどこに集中して訪れているのかについて検討する。図3は、2019年に島根県の観光客が、どの市町村を訪れていたのかを示したものである。また、図4は、2019年に島根県の観光客が、どの市町村で宿泊したのかを示している。2019年では、観光入込客延べ数においても、宿泊者数においても、出雲市と松江市の占める割合は合わせて約7割でかなり高い。図3より、観光入込客延べ数では、出雲市が、松江市より僅差で割合が高いが、図4より、宿泊者数においては、全体の56%を占める松江市が全体の21%を占める出雲市より圧倒的に高い割合を占めている。よって、島根県の観光客が訪れる市町村は、島根県東部の出雲市・松江市にかなり偏っていることがわかる。また、出雲市の観光地に訪れている観光客は多いものの、宿泊となると観光客が松江に偏っているということがわかる。松江市には、玉造温泉があり、宿泊客は有名な温泉地がある松江市に流れてしまっているということが考えられる。

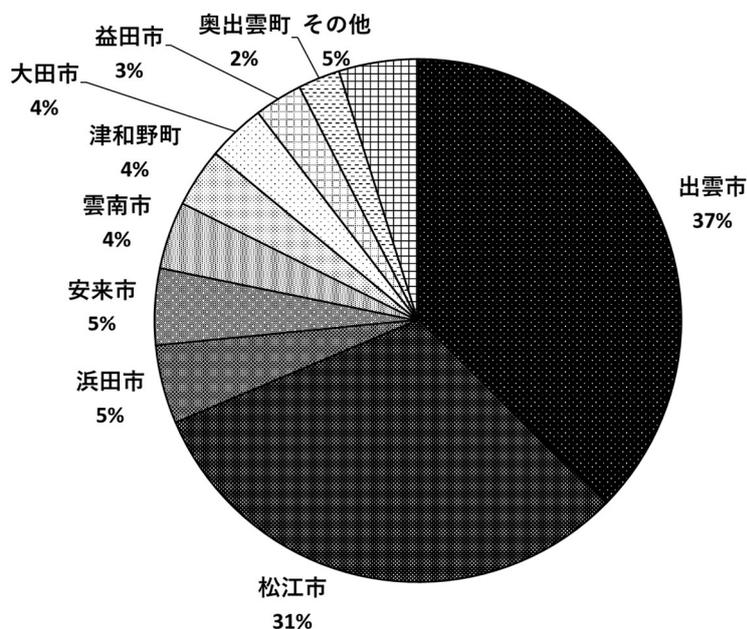


図3 島根県の観光入込客延べ数の内訳（2019年） 総数 31,133,287人  
（観光動態調査（2019年）より作成）

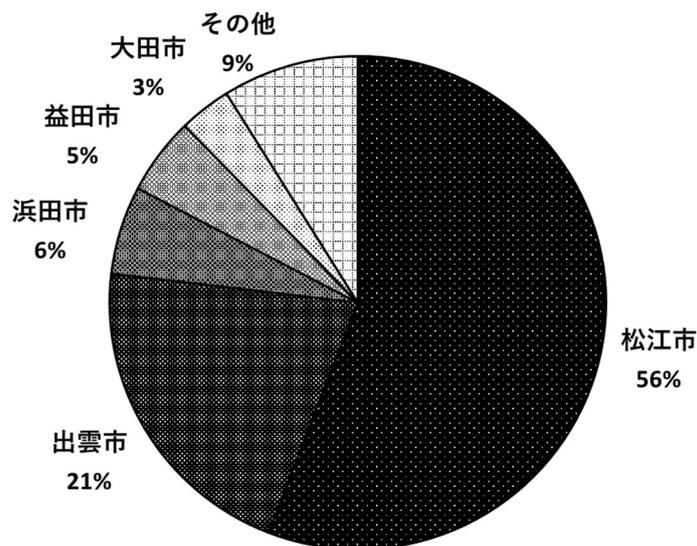


図4 島根県の宿泊者数の内訳（2019年） 総数 3,782,000 人  
（観光動態調査（2019年）より作成）

続いて、島根県に訪れる観光客が、島根県の観光のどのような部分に注目し、興味を持っているのかについて検討する。しまねの観光認知度調査は、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県在住の20～60代の男女を対象に、島根県の観光について、島根県がインターネット調査を行ったものである。この調査の有効回答数は約2,000人得られている。図5は、アンケートで用意された選択肢のうち、島根県のイメージとしてあてはまると回答された割合を選択肢別に示したものである。図5より、「特になし」という回答がかなり多い。よって、首都圏において、2020年3月時点では、島根県自体についての関心が、全体的にはあまり高くないということが考えられる。しかし、「特になし」以外に注目すると、島根県に関心がある人には、「神話の国、神秘的」、「ご縁の国」といったイメージを持たれていることがわかる。図6は、図7は、島根県において、観光客が訪れた観光地をカテゴリー別に分け、どのカテゴリーの観光地を訪れている割合が多いか、また、どの程度多いのか示したものである。2002年から2007年と2008年から2019年では、観光動態調査における分類の方法が異なるため、図6と図7に分けている。図6より、2002年から2004年までは、温泉の割合が約19%、神社仏閣の割合が約18%と僅差で、神社仏閣より温泉の割合の方が高かったが、2005年からは神社仏閣が全体の約2割を占めるようになり、最も高い割合になったことがわかる。図7より、2013年からは、神社仏閣が占める割合が全体の3割を超え、以前よりも平均的に高くなった。それに対して、僅差であった温泉は全体の約1割程度になっており、2013年から神社仏閣が圧倒的に高い割合を占めるようになったこともわかる。このことについては、2013年から変化が見られるため、出雲大社の平成の大遷宮が影響していると考えられる。よって、島根県の観光地として2004年までは神社・仏閣より温泉のほうが

やや注目されていたものの、2005 年ごろから神社・仏閣が最も注目を集めるようになり、さらに、2013 年の出雲大社の平成の大遷宮によって他の観光地よりも圧倒的に注目されるようになったことがわかる。図 5 においても、「神社仏閣が多い」という項目は、すべての項目の中では上位である。神社・仏閣は、島根県の観光において、重要なキーワードであることが考えられる。

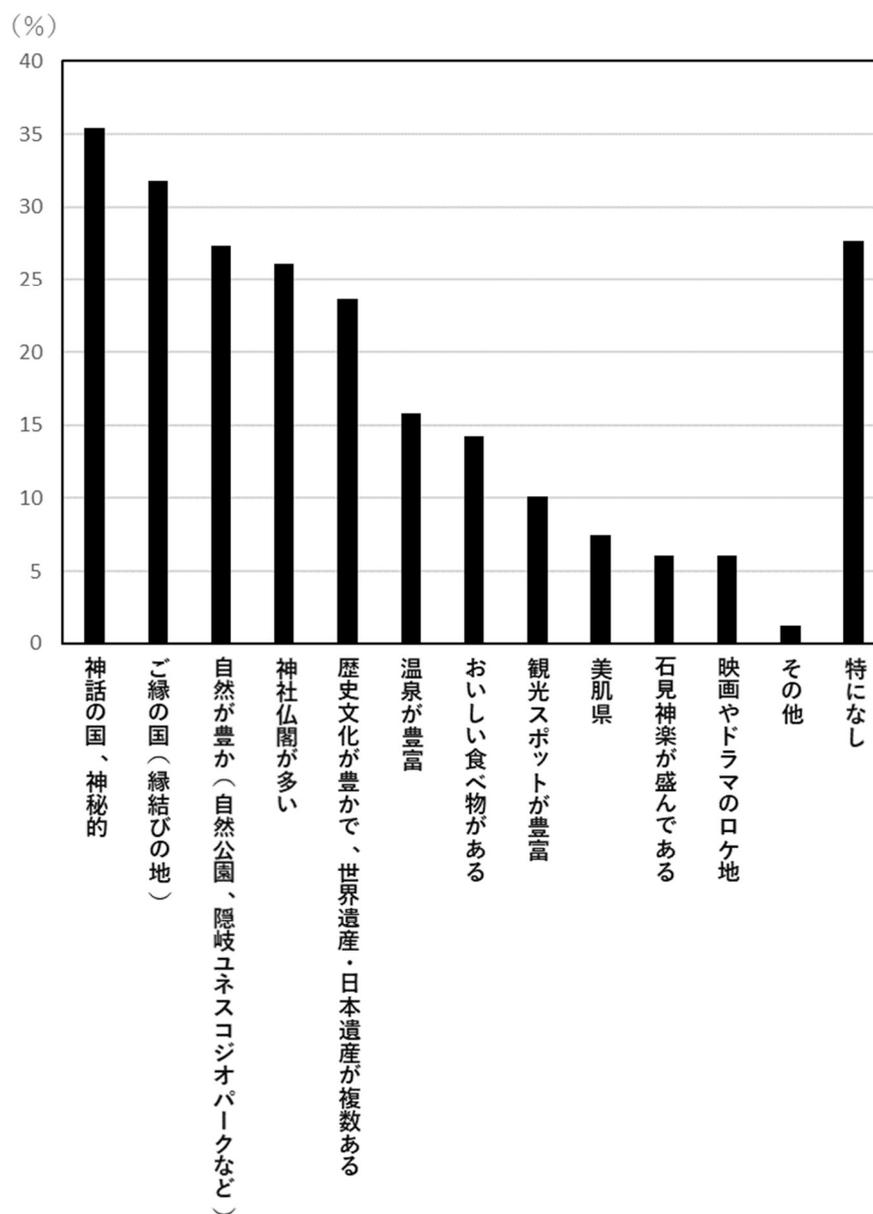


図 5 島根県のイメージとしてあてはまると回答した人の割合 (2020 年 3 月)  
(しまねの観光認知度調査 (2020 年 3 月) より作成)

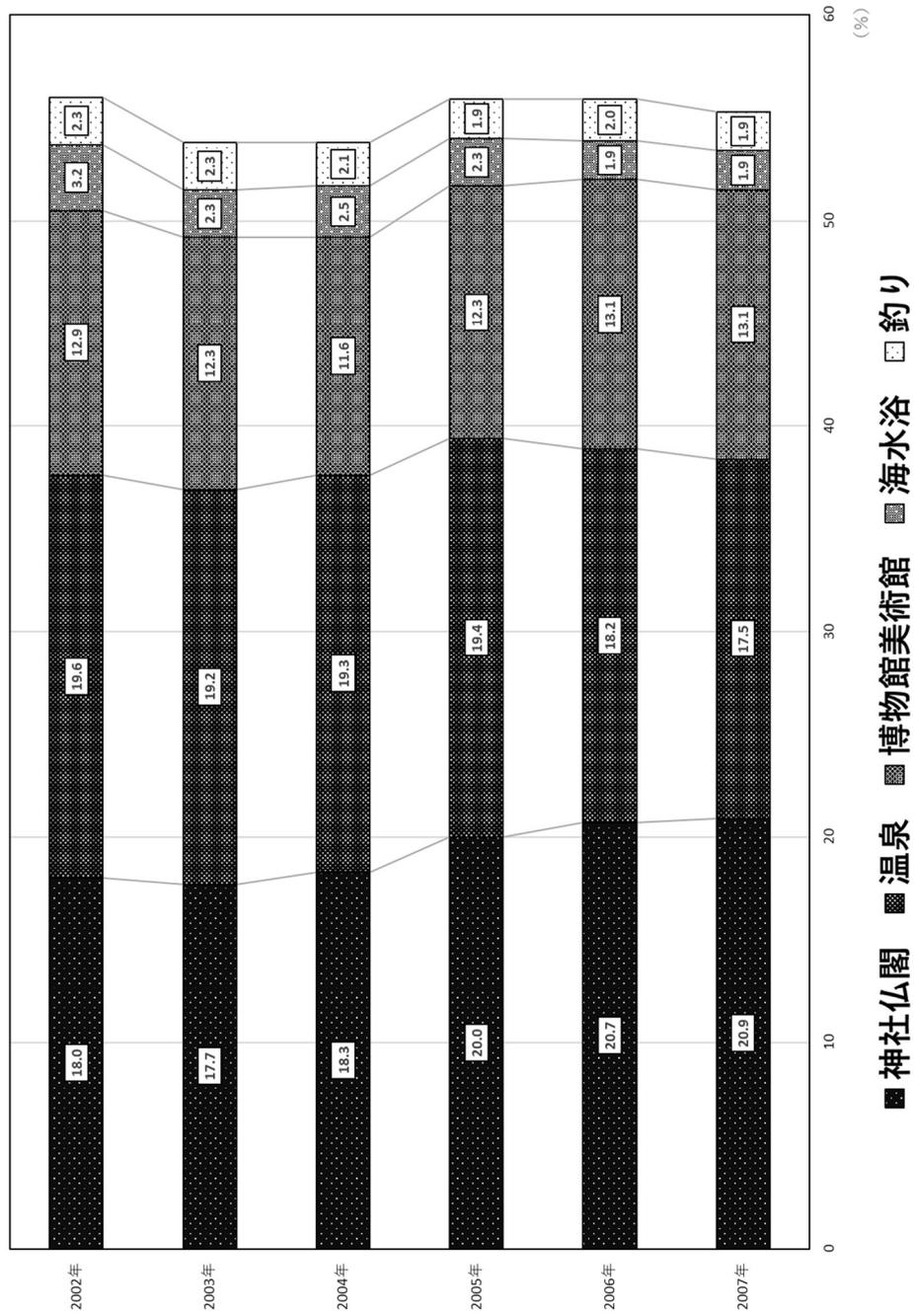


図6 行動目的別観光光入込客延べ数の割合の推移 (2002年～2007年)  
 (観光動態調査より作成)

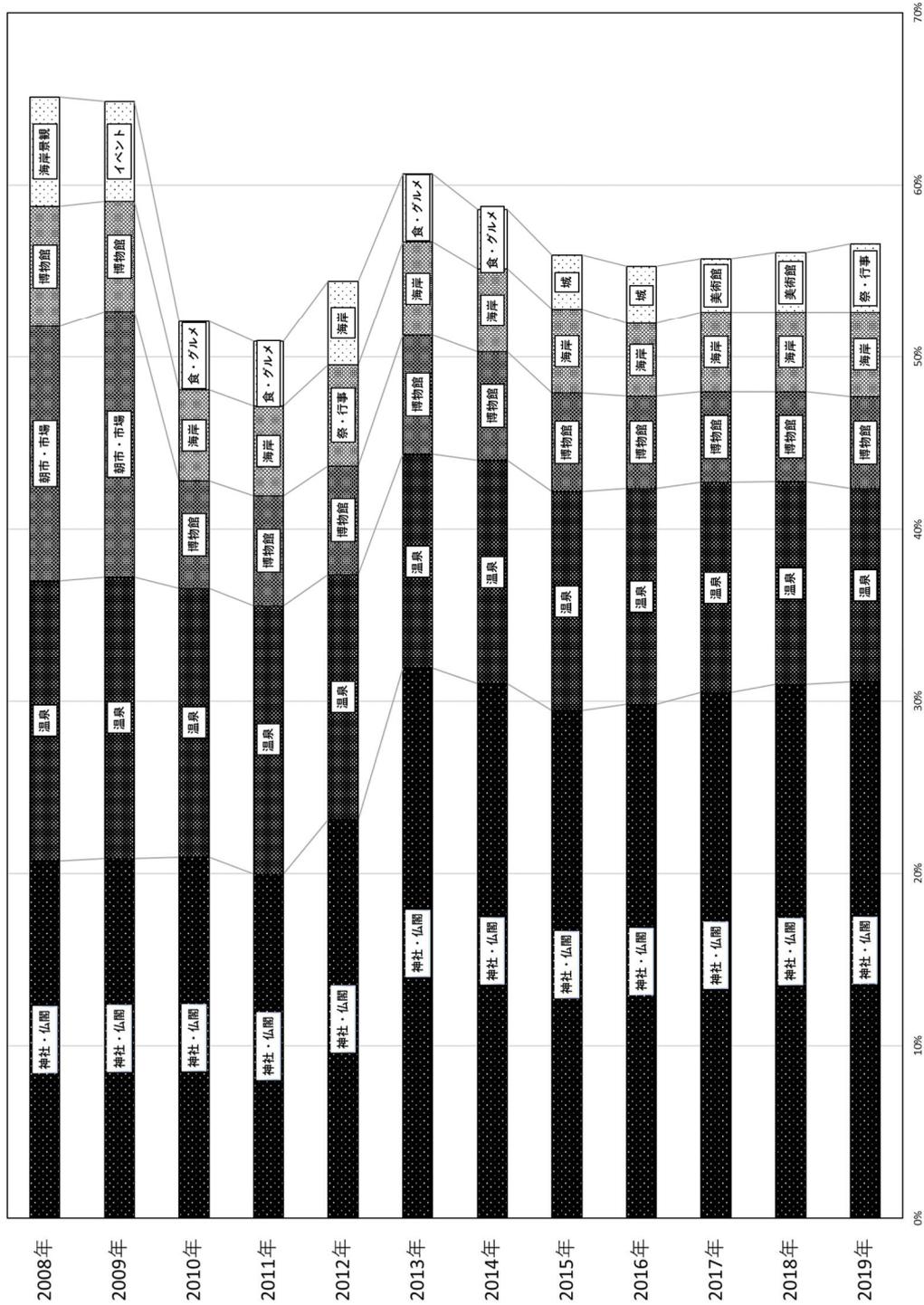


図7 行動目的別観光光入込客延べ数の割合の推移 (2008年～2019年)  
(観光動態調査より作成)

さらに、県内のどの観光地に観光客が集まっているのかについて、より具体的に見ていく。表1は、2019年に島根県の観光地において観光入込客延べ数が多かった上位10か所を示したものである。2019年では、出雲大社が6,340,000人地点で1位、日御碕が1,094,040人地点で2位となっていて、下位の観光地と比べて桁違いに観光客が多く、出雲大社と日御碕でも大きな差が開いている。図5、図6、図7から、島根県において神社・仏閣が特に観光地として人気で、重要なキーワードとなっているということがわかった。そのため、神社・仏閣に注目して見てみると、この表のうち、神社・仏閣では、出雲大社（出雲市）、太鼓谷稲荷神社（津和野町）、美保神社（松江市）が10位以内に入っている。次に、観光客が集中している松江市と出雲市についても見てみる。表2は、2019年に松江市の観光地において観光入込客延べ数が多かった上位10か所を示したものであり、表3は、2019年に松江市の観光地において観光入込客延べ数が多かった上位10か所を示したものである。神社・仏閣について、表2より、松江市では、島根県全体で7位であった美保神社が2位、八重垣神社が7位、表3より、出雲市では、出雲大社が1位、一畑薬師が6位、須佐神社が10位というように、それぞれ10位以内に入っている。観光地を個別に見ても、島根県において神社・仏閣を訪れる観光客が多いことがわかる。出雲大社は、出雲市のなかでも、また、島根県のなかでも、最も観光入込客延べ数が多く、その数は他の観光地とは桁違いである。表1、表2、表3から、島根県で観光地としてたくさんの人が訪れる神社仏閣は多くあり、島根県の観光において、神社・仏閣が重要であることがわかる。そして、そのなかでも、出雲大社は、観光入込客延べ数も桁違いであり、主に平成の大遷宮によって、島根県の観光に大きな影響をもたらしたことがわかる。また、これらは、島根県の観光の特徴的な傾向だと考えられる。

表1 島根県の観光地別観光入込客延べ数上位10か所（2019年）

順位	観光地・施設名	入込客延べ数（人地点）
1	出雲大社	6,340,000
2	日御碕	1,094,040
3	島根ワイナリー	728,773
4	足立美術館	648,298
5	玉造温泉	614,780
6	太鼓谷稲荷神社	603,983
7	美保神社	550,400
8	松江城山公園	516,575
9	松江水郷祭	480,000
10	道の駅湯の川	468,101
合計		32,990,180

（観光動態調査（2019年）より作成）

表2 松江市の観光地別観光入込客延べ数上位10か所(2019年)

順位	観光地・施設名	入込客延べ数(人地点)
1	玉造温泉	614,780
2	美保神社	550,400
3	松江城山公園	516,575
4	松江水郷祭	480,000
5	松江城	459,179
6	ホーランエンヤ	385,000
7	八重垣神社	335,411
8	カラコロ工房	318,534
9	お城まつり	315,000
10	由志園	308,960
合計		10,459,384

(観光動態調査(2019年)より作成)

表3 出雲市の観光地別観光入込客延べ数上位10か所(2019年)

順位	観光地・施設名	入込客延べ数(人地点)
1	出雲大社	6,340,000
2	日御碕	1,094,040
3	島根ワイナリー	728,773
4	道の駅湯の川	468,101
5	道の駅キララ多伎	439,080
6	一畑薬師	332,000
7	湯元楯縫割烹温泉ゆらり	224,664
8	立久恵峡	215,688
9	古代出雲歴史博物館	214,044
10	須佐神社	171,900
合計		12,488,935

(観光動態調査(2019年)より作成)

### 3. 観光地としての島根県の神社仏閣の分布

前章では、島根県の観光において、神社・仏閣が重要であるという特徴があることがわかった。この章では、島根県における観光地としての神社・仏閣は、どのように分布しているのかについて見ていく。図8は、島根県の観光動態調査において観光地として観光入込客延べ数が数えられている神社・仏閣の分布と、その観光入込客延べ数の程度を示したものである。表4は、図8と同じ島根県の観光動態調査において観光地として観光入込客延べ数が数えられている神社・仏閣を観光入込客延べ数が多い順に並べ、その神社・仏閣がある市町村、観光入込客延べ数を示している。図8、表4より、県西部では、鹿足郡津和野町の太鼓谷稲荷神社の観光入込客数は比較的多いが、その隣の益田市にある比較的観光入込客数が少ない2つの神社・仏閣を除いて、他に神社・仏閣はあげられておらず、観光入込客数の統計にあがっている神社・仏閣は、県東部に集中していることがわかる。また、表1、表3においても、島根県、出雲市のなかで、出雲大社の観光入込客延べ数が他の観光地と比べて圧倒的に多いことは明らかであったが、図8より、他の神社・仏閣と比べてみても桁違いに観光入込客数が多いことがわかる。

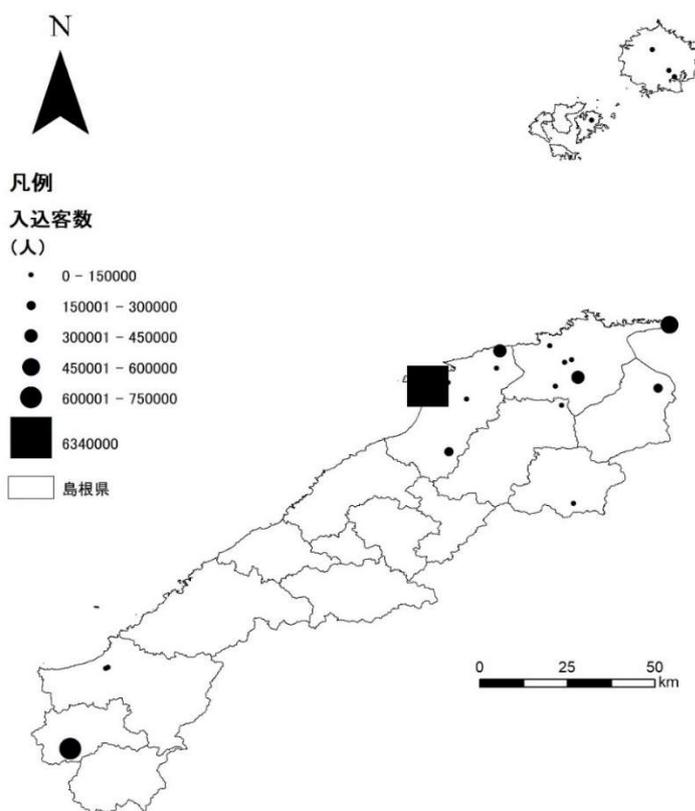


図8 島根県の神社・仏閣とその観光入込客延べ数の分布  
(観光動態調査(2019年)より作成)

表 4 島根県のおもな観光地としての神社仏閣

順位	神社・仏閣名	市町村名	入込客延べ数（人地点）
1	出雲大社	出雲市	6,340,000
2	太鼓谷稲成神社	鹿足郡津和野町	603,983
3	美保神社	松江市	550,400
4	八重垣神社	松江市	335,411
5	一畑薬師	出雲市	332,000
6	清水寺	安来市	244,100
7	須佐神社	出雲市	171,900
8	佐太神社	出雲市	127,300
9	玉作湯神社	松江市	117,961
10	長浜神社	出雲市	71,867
11	万九千神社	出雲市	67,350
12	須我神社	雲南市	33,600
13	金言寺	仁多郡奥出雲町	25,000
14	玉若酢命神社	隠岐郡隠岐の島町	23,290
15	水若酢神社	隠岐郡隠岐の島町	19,115
16	月照寺	松江市	18,941
17	隠岐神社	隠岐郡海士町	16,730
18	鱒淵寺	出雲市	8,965
19	隠岐国分寺	隠岐郡隠岐の島町	5,752
20	萬福寺	益田市	5,470
21	医光寺	益田市	5,102
22	普門院	松江市	1,076

（観光動態調査（2019年）より作成）

図9は、図8の観光動態調査と同年の2019年に観光雑誌に掲載された島根県の神社・仏閣の分布を示したものである。図8と図9を比べると、図9の神社・仏閣の分布は、県東部に集中しているという点において、図8の神社・仏閣の分布と似ている。しかし、図9では、松江市、出雲市、大田市で、観光雑誌で取り上げられている神社・仏閣の数は、観光動態調査に取り上げられる神社・仏閣の数よりも多くなっている。これらの観光雑誌のタイトルは、松江、出雲、石見銀山の三カ所が強調されており、実際にその三カ所を中心に観光地が紹介されている。また、これらの観光雑誌は、松江・出雲・石見銀山とその周りの観光地が掲載されるという構成になっていて、それぞれの観光地としてこれらの神社・仏閣も紹介されている。石見銀山は大田市にあるため、これは松江市、出雲市、大田市において神社・仏閣が観光動態調査よりも多く取り上げられていることの原因になっていると考えられる。

島根県において観光地として人々が訪れる神社・仏閣の分布は、観光動態調査と観光雑誌から、県東部に偏っていることがわかった。そして、観光動態調査によって島根県で観光地として観光客数を数えられている神社・仏閣と観光雑誌で紹介されている神社・仏閣は分布が似ており、観光雑誌が観光客の行動に影響を与えていると考えられる。

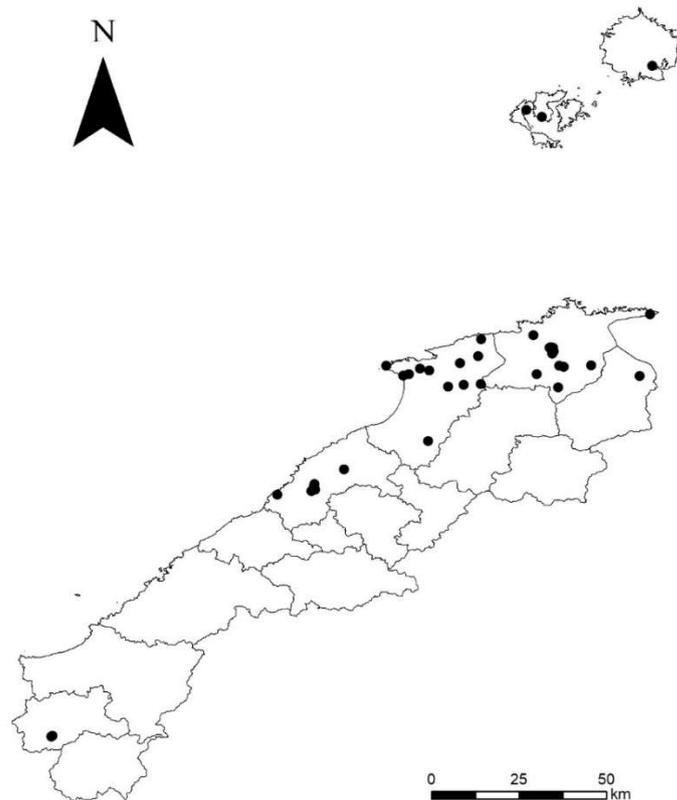


図9 島根県の観光雑誌に掲載された神社・仏閣の分布  
 (『るるぶ情報版 山陰 '19』、『るるぶ松江 出雲 石見銀山 '19』、『まっぷる 山陰'19』、『まっぷる 松江・出雲・石見銀山'19』より作成)

#### 4. 須佐神社から見た島根県の神社・仏閣と観光

出雲大社以外の島根県の神社・仏閣は、観光地としてどのような動きがあるのか。島根県の神社・仏閣のなかで一つの事例を取り上げて見ていく。島根県の神社・仏閣の中でも、島根県出雲市佐田町の須佐神社は、表3の出雲市の観光地別の観光入込客延べ数において10位に入っており、県内でも多く観光客が訪れている神社であると言える。須佐神社の観光客数の推移について見てみる。図10は、須佐神社の観光入込客延べ数の推移を示したもので、赤い点は、折れ線グラフのうち、出雲大社の平成の大遷宮があった2013年の観光入込客延べ数を示している。図10より、須佐神社では、2006年に観光地として観光動態調査に取り上げられはじめ、2009年から2010年にかけて観光客数が大きく増加している。その後3年間は観光客が減少していく傾向にあったものの、2013年に持ち直し、2013年からは増減しながらも観光客数を維持している。なぜこのように観光客数が推移していったのか考えるため、今回の調査では、須佐神社で聞き取り調査を行った。

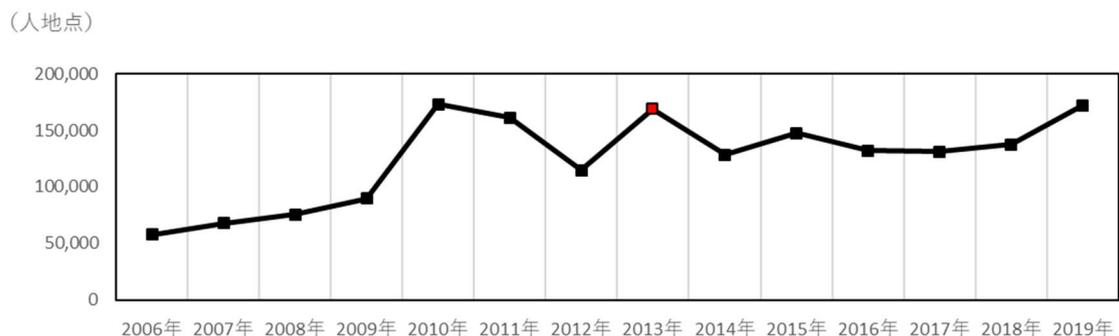


図 10 須佐神社の観光入込客延べ数の推移  
(観光動態調査より作成)

表 5 は、聞き取り調査などから、近年須佐神社で起こった出来事をまとめたものである。表 5 より、須佐神社は 1997 年に遷宮があった。須佐神社での聞き取り調査によると、その年の参拝者はかなり増加したが、遷宮後は参拝者が減少していったという。そして、2005 年にスピリチュアリストの江原啓之の著書によって強力なパワースポットとして須佐神社が紹介された。図 10 より、このことによって観光客が増加し、その後の 2006 年から島根県において観光地として須佐神社の観光入込客数の統計を取り始めたことが考えられる。パワースポットとは、人にエネルギーを与えるとされる場所のことで、神社などのパワースポットを巡ることはブームにもなっている。2010 年には、江原啓之によってテレビ番組でも紹介されており、さらに多くの人々に情報が広まっていったと考えられる。図 10 から、2009 年から 2010 年にかけての観光客数の急激な増加はこの出来事によるものだと考えられる。これらのことから、出雲大社の平成の大遷宮以前では、須佐神社はメディアによってパワースポットとして話題になり、観光客数が急激に増加していたと考えられる。2011 年に、地元の人々により須佐語り部の会が結成されたが、須佐語り部の会への聞き取り調査によると、須佐神社のメディアなどの対応のため結成されたのだという。須佐語り部の会は、そこから主に須佐神社のガイドなどの活動を行っていった。

出雲大社の大遷宮があった 2013 年ごろについて、2012 年から 2013 年に、須佐神社は「五縁祈願祭」に参加している。「五縁祈願祭」は、神話の国縁結び観光協会によるイベントで、縁結びにゆかりのある 5 つの神社で、美縁、良縁、愛縁、幸縁、守縁の 5 つの縁を授かる祈禱を受けることができるというものであった。神話の国縁結び観光協会のホームページによると、神話の国縁結び観光協会とは、安来市、東出雲町、松江市、斐川町、出雲市の官民 71 団体が広域観光の振興を図るため、2005 年に設立されたものである。聞き取り調査によると、このイベントによって須佐神社ではその年の祈禱の申し込みが激増し多忙な年になったという。出雲大社の平成の大遷宮があった 2013 年には、出雲大社周辺もコースの一つとなるウォーキングのイベント「出雲の国ツーデーウォーク」も開催された。平成の大遷宮にあわせて「五縁祈願祭」、「せっかくウォーク」といったイベントが

開催され、出雲大社の平成の大遷宮の影響を受け、再び観光入込客延べ数が急激に増加したと考えられる。また、須佐神社周辺では、2002年から「スサノオウォーキング」というウォーキングのイベントが同実行委員会により開催されており、2004年にはコースに須佐神社周辺も含む「出雲風土記スサノオのみち」が、「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれている。「スサノオウォーキング」でも「せっかくウォーク」でもコース中に設定されたポイントで地元からのもてなしがあり、地元の人々の協力があつたことがわかる。

出雲大社の平成の大遷宮が終わり、2017年には、高速道路のカードラリーのカードに選ばれた。また、同年に須佐神社は李家幽竹の著書にパワースポットとして取り上げられている。出雲大社の平成の大遷宮以前にも、パワースポットとしてメディアに取り上げられ大幅に観光客の増加が見られた須佐神社だったが、出雲大社の平成の大遷宮後もしばしば話題にあがっており、観光客が急激に減ることがなく、人気を保っていると考えられる。また、メディアや平成の大遷宮による観光客増加の背景には、島根県内の官民の協力によってできた神話の国縁結び観光協会や須佐語り部の会など地元の人々による取り組みがあると考えられる。

表5 近年の須佐神社の年表

年	出来事	出典
1997	遷宮	聞き取り調査より
2002	「スサノオウォーキング」実行委員会により第1回「スサノオウォーキング」が行われる	朝日新聞記事データベース聞蔵IIビジュアルより
2004	「出雲風土記スサノオのみち」が日本ウォーキング協会の「美しい日本の歩きたくなる道500選」として認定される	聞き取り調査より
2005	江原啓之の著書『スピリチュアル・サンクチュアリ 江原啓之の神紀行2 四国出雲広島編』にて紹介される	マガジンワールドホームページより
2010	テレビ番組「やりすぎコージー」のパワースポットを紹介する企画で江原啓之によって紹介される	価格.comテレビ紹介情報より
2011	地元住民により須佐語り部の会結成	聞き取り調査より
2012	須佐神社が「五縁祈願祭」に参加（2012-2013）	株式会社吉田ふるさと村ホームページ、聞き取り調査より
2013	出雲の国ツーデーウォーク実行委員会により、「出雲の国ツーデーウォーク」の「せっかくウォーク」が須佐神社周辺で行われる	朝日新聞記事データベース聞蔵IIビジュアルより
2017	西日本高速道路の「お国じまんカードラリー2017」で島根県のカードに選ばれる 李家幽竹の著書『新版李家幽竹最強龍穴パワースポット 龍穴には強運のすべてがある！』にて紹介される	朝日新聞記事データベース聞蔵IIビジュアルより 山と溪谷社ホームページより

(朝日新聞記事データベース聞蔵IIビジュアル、マガジンワールドホームページ、価格.com テレビ紹介情報、山と溪谷社ホームページ、株式会社吉田ふるさと村ホームページ、聞き取り調査より作成)

## 5. おわりに

本稿では、島根県の観光の特徴やその実態について検討した。神社・仏閣は観光地ではなく、あくまで宗教施設だが、近年ではパワースポットや、最近では御朱印めぐりなどのブームがあったように、観光客が多く訪れる場所になっている。「ご縁」を含むキャッチコピーでPRをしてきた島根県の観光では、神社・仏閣が注目され、訪れる人が多いことがわかった。島根県の中でも特に観光客数が多い出雲大社は、2013年の平成の大遷宮などにより、島根県の観光に大きな影響を与えていた。また、島根県の神社・仏閣の観光にも大きな影響を与えており、須佐神社のように、2013年の平成の大遷宮以前にメディアなどによって話題にあがっていた神社は、2013年にさらに観光客が増え、地方公共団体や地元の人々の取り組みもあり、2013年より後も多くの観光客が訪れ続けている。

観光雑誌の影響も大きいですが、観光地としての神社・仏閣は松江市、出雲市を中心とした県東部に集中しており、観光客数も同じように偏っている。観光雑誌で中心的に取り上げられていない島根県西部には、観光雑誌には載っていない観光地が多くある可能性がある。これから西部の観光をどのように盛り上げていくかは、島根県の観光にとって重要だと考えられる。

### —付記—

本稿を作成するにあたり、島根県庁観光振興課の岩崎絵理様、継山晴進様、出雲市役所観光課の佐久間仁様、出雲市観光協会の稲根克也様、須佐神社権禰宜の横山様、須佐語り部の会の板垣正樹様、出雲市佐田行政センター地域おこし協力隊の田村貴和子様にはお忙しい中にも関わらず、大変お世話になりました。ここに記して、厚くお礼申し上げます。

### 参考

- ・ POLA 美肌県グランプリ 2015  
<https://www.pola.co.jp/special/bihadaken/2015/> （最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日）
- ・ 島根県観光振興課 観光動態調査  
[https://www.pref.shimane.lg.jp/tourism/tourist/kankou/chosa/kanko\\_dotai\\_chosa/](https://www.pref.shimane.lg.jp/tourism/tourist/kankou/chosa/kanko_dotai_chosa/)  
（最終閲覧日 2021 年 1 月 23 日）
- ・ フジドリームエアラインズ 沿革  
<https://www.fujidream.co.jp/company/history.html> （最終閲覧日 2021 年 1 月 22 日）
- ・ 江原啓之公式サイト  
<https://www.ehara-hiroyuki.com/guest/index.php> （最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日）
- ・ マガジンワールド 江原啓之神紀行 2 四国・広島・出雲  
<https://www.ehara-hiroyuki.com/guest/index.php> （最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日）

- ・ 価格.com テレビ紹介情報  
<https://kakaku.com/tv/channel=12/programID=13598/episodeID=296705/>  
 (最終閲覧日 2021 年 1 月 24 日)
- ・ 李家幽竹 OFFICIAL WEBSITE  
<https://yuchiku.com/> (最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日)
- ・ 山と溪谷社 新版李家幽竹最強龍穴パワースポット 龍穴には強運のすべてがある  
<https://www.yamakei.co.jp/products/2816035410.html> (最終閲覧日 2020/12/30)
- ・ 朝日新聞記事データベース聞蔵IIビジュアル  
<http://luna.lib.shimane-u.ac.jp:3103/library2/main/top.php>  
 (最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日)
  - ・「須佐之男命の伝承地歩こう 23 日、佐田町 / 島根」 2002 年 11 月 05 日 朝刊
  - ・「イベント情報 / 島根県」 2013 年 03 月 22 日 朝刊
  - ・「名所巡ってカード集めよう 県内、松江城など 6 カ所 西日本高速道路 / 島根県」  
2017 年 04 月 20 日 朝刊
- ・ 島根県ホームページ 島根県内の高速道路整備の経緯  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/highway/kosoku/genjou/kousokukeii.html>  
 (最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日)
- ・ 島根県観光振興課 しまねの観光認知度調査  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/tourism/tourist/kankou/chosa/ninchido.html>  
 (最終閲覧日 2021 年 1 月 23 日)
- ・ 『るるぶ情報版 山陰 '19』 JTB パブリッシング
- ・ 『るるぶ情報版 松江 出雲 石見銀山 '19』 JTB パブリッシング
- ・ 『まっぷる 山陰 '19』 昭文社
- ・ 『まっぷる 松江・出雲・石見銀山 '19』 昭文社
- ・ 株式会社吉田ふるさと村ホームページ 五縁祈願祭  
<https://kankou.y-furusatomura.co.jp/pwm/news.html?code=61>  
 (最終閲覧日 2020 年 12 月 30 日)
- ・ 神話の国縁結び観光協会ホームページ  
<http://www.en-musubi.net/outline/index.html> (最終閲覧日 2021 年 1 月 24 日)